

事業名：「人材活用・情報プラットフォーム構築・マーケティング能力向上による組織基盤強化」

団体名：公益財団法人日本セーリング連盟

事業実施の背景・課題、目標

3・4・5は「お金がない」ことが原因（東京2020後、スポンサー収入は10分の1以下）
2・6は要するに「ガバナンスが不十分」
→ 結果として1に対する打開策を打ち出せない

1. 会員数が**減少**している
2. 加盟団体に対する統括機能・ガバナンスが働いていない
3. 逆ピラミッド構造で事務局機能が**脆弱**である
4. 強化予算に依拠していた財政基盤が**脆弱**である
5. MVVが不完全でマーケティング能力が**脆弱**である
6. 組織基盤が**脆弱**である

本事業における具体的な取組内容

計画①：ビジョン・中長期戦略の改訂のための基礎調査（会員アンケート等の**ニーズ調査**）

計画②：組織**情報プラットフォーム**の構築

計画③：最新技術を活用した新たな観戦体験の提供（**ライブ配信**）

計画④：サステナビリティに関する**スポンサーアクティベーション**の調査・トライアル

計画⑤：DEI企業研修に関する**スポンサーアクティベーション**の調査・トライアル

計画⑥：管理・専門**人材**の採用・活用（プロジェクトマネジメント・広報・マーケティング・セールス）

令和6年度の取組内容

計画① ビジョン・中長期戦略の改訂のための活動

- ・ バリューとパーパスを整理

計画② 組織情報プラットフォームの構築

- ・ 「My Sailing」をリリースし、運用を開始

計画③ 観戦体験の調査設計及び大会でのトライアル

- ・ 第89回全日本学生ヨット選手権大会を活用して、大会リアルタイム動画の配信を実施
- ・ 視聴者アンケートの実施

計画④ サステナビリティ協働型アクティベーションの調査・トライアル

- ・ 参加者の環境貢献およびCO₂削減をポイント化したSDGs貢献ア

プリの追加開発を実施

- ・ サステナビリティレポートを作成
- ・ サステナビリティ協働型アクティベーション

計画⑤ DEIの協働型アクティベーションのリサーチ・トライアル

- ・ DEIの協働型アクティベーションのコンテンツ収集、プラットフォームとライブラリーを構築
- ・ メディアデーの実施

計画⑥ 管理・専門人材の採用・活用

- ・ 営業管理体制の構築
- ・ 諸規程整備、コンプライアンス研修、職員研修

令和6年度の取組の進捗・成果・課題

計画① ビジョン・中長期戦略の改訂のための活動

- ・ 当連盟の存在理由をパーパスとしてステークホルダーに示せる（ストーリーとして語れる）ようになった。
- ・ 当連盟が持つ他のNFとの違い（差別化）を、より鮮明に意識できるようになった。

計画② 組織情報プラットフォームの構築

- ・ 新システム「My Sailing」の導入により、事務局の負担軽減と、傘下の加盟団体を含む情報の一元管理を進めた。

計画③ 観戦体験の調査設計及び大会でのトライアル

- ・ 海上で実施する競技を、陸上から観戦できるようになった。
- ・ セーリングのSee Sportsとしての価値を向上することができ、気軽な観戦機会を提供することができた。
- ・ 映像でセーリング競技を見せられることで、スポンサー獲得（配信時の広告や、セーリング競技の魅力を伝えるという観点）にも役立つことができるようになった。

計画④ サステナビリティ協働型アクティベーションの調査・トライアル

- ・ サステナビリティレポートによって当連盟の環境に関する活動を対内的・対外的に示し、会員や関係する団体・企業に対する活動のアピールに繋がった。
- ・ サステナビリティ協働型アクティベーションとして1社と

取り組みを開始。実際に行うことで、具体的な考えを具現化し、課題も把握できた。

計画⑤ DEIの協働型アクティベーションのリサーチ・トライアル

- ・ コンテンツ収集とアセット構築が完了し、インクルーシブ各分野のコンテンツが提供できる状態となった。
- ・ メディアデーによって、今後の情報発信に向けた関係性をメディアと構築した。
- ・ YouTubeチャンネルとTikTokを開設。
- ・ インクルーシブ研修を検討する企業が拡がり、問い合わせが増加した。

計画⑥ 管理・専門人材の採用・活用

- ・ **ゴールドパートナー新規1社、オフィシャルパートナー新規1社を獲得した。さらにオフィシャルパートナー1社、オフィシャルスポンサー1社が加わる見通しとなった。**
- ・ 役員選考委員会規程の新設に向けた検討用資料を準備した。
- ・ コンプライアンス研修に使用する事例の最新化を行った。
- ・ 職員労働関係の諸規程の整備が完了した。

本事業の成果目標・KPIの達成状況

計画① ビジョン・中長期戦略の改訂のための活動

- ・ バリューの策定完了 →100%達成

計画② 組織情報プラットフォームの構築

- ・ ユーザー要件カバー率：100% →60%達成
※原因：機能過多による要件定義と開発の遅れ（次年度継続）

計画③ 観戦体験の調査設計及び大会でのトライアル

- ・ 新レースフォーマットのイベント実施：1回 →未達
- ・ 新ビジネスモデルのトライアル実施：1回 →未達
※原因：新規性よりも現実性（低予算化）を優先

計画④ サステナビリティ協働型アクティベーションの調査・トライアル

- ・ サステナビリティブランド浸透によるスポンサーの獲得・維持・強化：2社 →100%達成
- ・ 活動内容のレポート：1回/年 →100%達成

計画⑤ DEIの協働型アクティベーションのリサーチ・トライアル

- ・ パラ事業に係る収入に占める助成金の比率（現状98%）の引き下げ：70% →30%達成
※スポンサー獲得の遅れ

計画⑥ 管理・専門人材の採用・活用

- ・ スポンサー獲得・維持・強化：6件 →150%達成
 - ゴールドパートナー：新規1件
 - オフィシャルパートナー：継続1件
 - オフィシャルパートナー：新規1件
 - オフィシャルスポンサー：新規1件
 - スペシャルサプライヤー：新規1件
 - 賛助会員：新規5件

本事業を通じて感じた成果、課題等

3年間で見えた課題 = 組織の持続可能性

①資金を確保できるのか

- ・ 2025年度以降は組織基盤強化支援事業の助成金がないので、自己財源または協賛金が必要となる。
- ・ 助成金に頼らずにMy Sailingの開発を継続する必要がある。
- ・ 資金を確保できなければライブ配信は実施できず、獲得したノウハウが無駄になる危険がある。
- ・ 獲得したスポンサー協賛金からマーケティング・セールス活動費用を捻出するという循環を構築する必要がある。

②人材を確保できるのか

- ・ 連盟の事業を推進する人材が足りない。
- ・ ボランティアの疲弊による人材流出が起きている。

本事業を踏まえた将来的な構想

【令和7年度以降の構想】

組織基盤強化支援事業を推進してきた「経営企画室」を改組し、「経営企画委員会」を設置した。事業の各取組を令和7年度以降も継続するために、専門委員会に割り当てたり、②経営企画委員会の中に担当チームを置いて担当させたりすることとし、事業を継続できる体制を整えた。

計画① ビジョン・中長期戦略の改訂のための活動

- 筆頭副会長（経営企画室長）が継承

計画② 組織情報プラットフォームの構築

- 常務理事（経営企画副室長）が継承（直下に専門PT設置）

計画③ 観戦体験の調査設計及び大会でのトライアル

- 経営企画委員会See Sports検討担当チームが継承

計画④ サステナビリティ協働型アクティベーションの調査・トライアル

- 環境委員会が継承

計画⑤ DEIの協働型アクティベーションのリサーチ・トライアル

- パラセーリング委員会が継承

計画⑥ 管理・専門人材の採用・活用

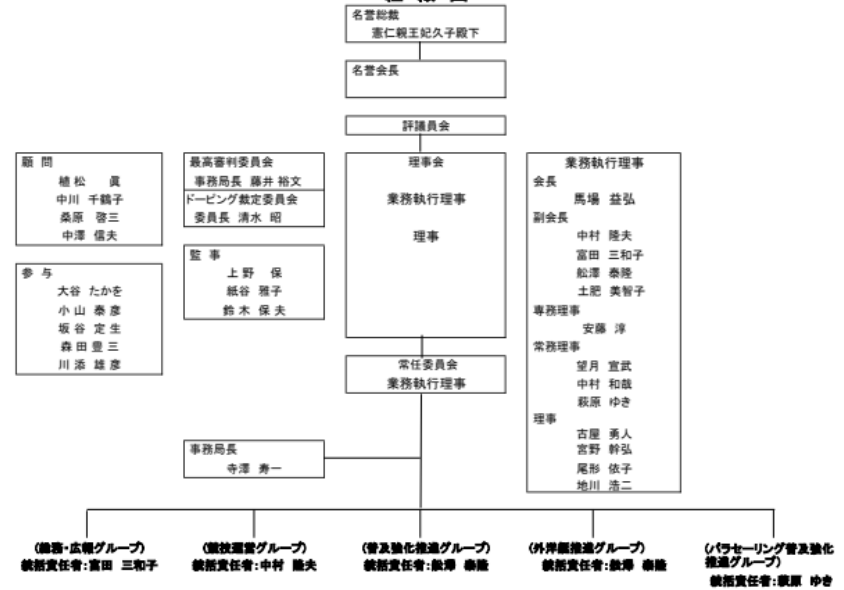
- ガバナンス：総務委員会が継承
- マーケティング・セールス：経営企画委員会協賛担当チームが継承
- 戦略広報：広報委員会が継承

【令和7年度のガバナンス改革】

組織経営人材・事業推進人材の高齢化・減少に合わせ、人材の新規獲得、迅速な意思決定のための理事会のスリム化、機能が重複した監督機関の改編など、26年前の連盟発足（2つのNFの合併）時に積み残した組織課題と時代変化に適応した組織への脱皮に着手し始めた。

公益財団法人 日本セーリング連盟

組織図



経営企画委員会				
総務委員会 委員長 浅田 素之	ルール委員会 委員長 藤井 裕文	普及指導委員会 委員長 坂口 英章	外洋常任委員会 委員長 松澤 泰隆	パラセーリング委員会 委員長 佐藤 公俊
財政委員会 委員長 松田 一隆	レースマネージメント委員会 委員長 京黒 太郎	オリンピック強化委員会 委員長 宮本 貴文	外洋計測委員会 委員長 川合 紀行	
事業開発委員会 委員長 平松 隆	ファンデザインクラス計測委員会 委員長 中村 和哉	ジュニアユース7カデミー委員会 委員長 中村 公俊	外洋安全委員会 委員長 宮川 昌久	
広報委員会 委員長代行 安藤 洋	医事委員会 委員長 栗原 茂勝	キールポート強化委員会 委員長 久保田 悟	通信委員会 委員長 坂口 誠治	
国際委員会 委員長 堀川 郁子	国スポ委員会 委員長 黒川 重男	eSailing委員会 委員長 尾形 依子	アメリカスカップ委員会 委員長 植松 真	
環境委員会 委員長 大垣 俊朗		アスリート委員会 委員長 吉田 愛	ジャパンカップ委員会 委員長 中澤 慎夫	
レディース委員会 委員長 長田美香子				
海 そのま基金 海洋環境 クリーンプロジェクト推進委 員会 委員長 加山 雄三		アンチドーピング委員会 委員長 矢部 信成		
経営企画委員会 (協賛担当チーム) 副委員長 久保田悟	経営企画委員会 (See Sports検討担当チーム) 副委員長 中村和哉	経営企画委員会 (See Sports検討担当チーム) 副委員長 中村和哉		
経営企画委員会 (See Sports検討担当チーム) 副委員長 宮野 幹弘	経営企画委員会 (See Sports検討担当チーム) 副委員長 富田 三和子			